



社団法人高松青年会議所

ECOイベントマニュアル

2010年度版

ECOに取り組む前に・・・

「和の心」

日本人は古来より、豊かな自然の恩恵に感謝し、先人を敬い、他者を思いやる心を大事にしてきました。しかし、私達を取り巻く環境は、物質的には豊かになったものの、自然に対し感謝する心の喪失や自分さえよければという独りよがりな考え方等、心の豊かさは乏しくなるばかりです。そして、食べ物への冒涇、増え続けるゴミ、我が物顔で使い続ける地球エネルギー等、自然環境に対して私達自身の手で蹂躪し続けた結果が、様々な環境問題を引き起こしているのではないのでしょうか。

私達は、その問題を真摯に受け止め、地球環境に対して真剣に向き合って考えて自然・ひと・まちと共生の取れた社会を構築しなければなりません。ECO運動・活動に取り組む前に、まずは自然に感謝する心、先人への感謝、他者を思いやる利他の心、命の尊さを学び、そして郷土に対し愛着と誇りを持つこと、そして当たり前の事を当たり前出来る大人の背中を見せる事が、環境問題解決の第一歩と考えます。

- 一、自然の恩恵に感謝する心を持つ
- 一、先人を敬い、他者を思いやる心を持つ
- 一、物を大事にする心を持つ
- 一、郷土に愛着と誇りを持つ

マニュアル

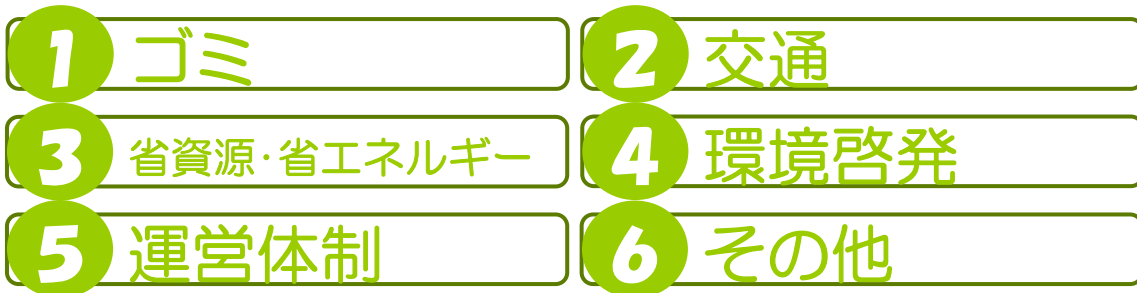
事業が環境に及ぼす影響に気づき、それを最小限にとどめようと行動する時、どのような面に、どのような影響が考えられ、それに対してどの様に取り組むか、その具体的な内容がはっきりしていれば、適確に対処する事が出来ます。

また、**計画(Plan)→実施(Do)→点検(Check)→見直し(Action)**といった手順を定め、それに沿って取り組む事で、開催後に振り返って見直す事が容易になります。

さらに、こうした取り組みを継続していく事で、アイデアと工夫を蓄積していく事が可能になります。

取組の内容

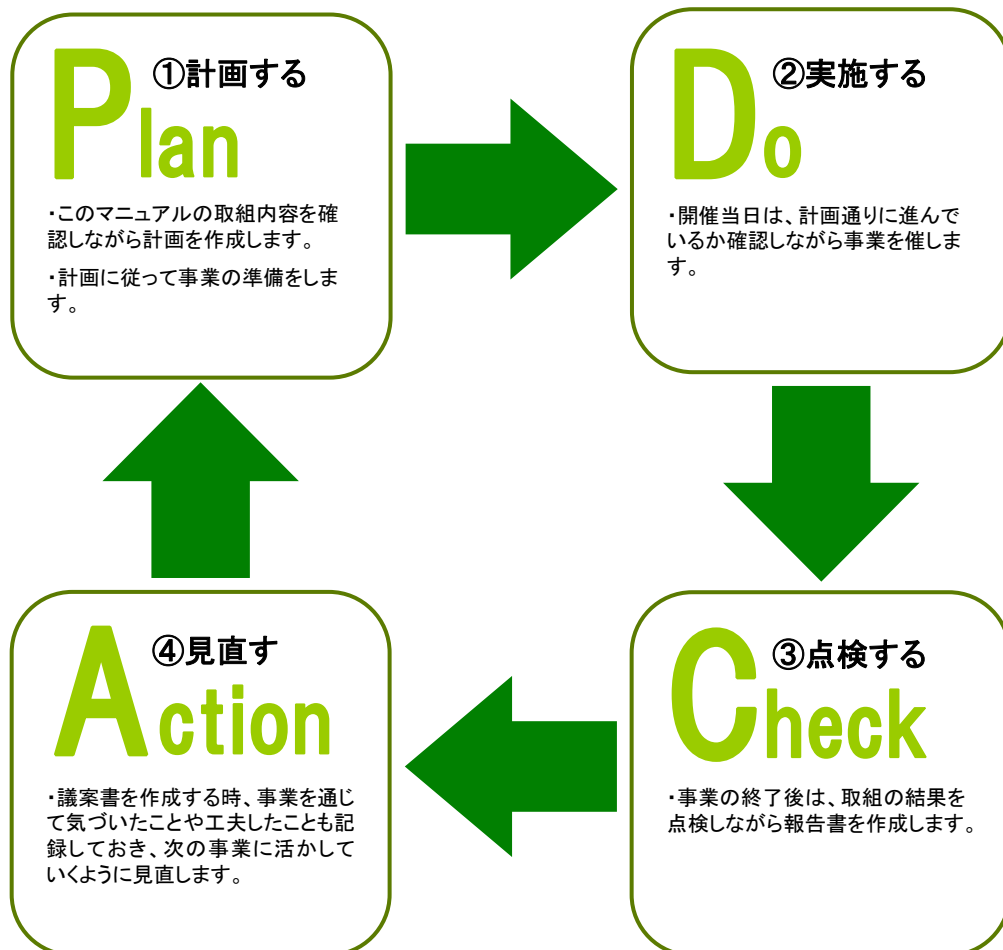
事業は様々な目的と形式で催される為、環境に及ぼす影響も多種多様に考えられますが、このマニュアルでは、出来るだけ影響を少なくする為に社団法人高松青年会議所(以下高松JC)が取り組む内容を、大きく以下の六つに分類致しました。



さらに、それぞれの内容について、どのような事業でも無理なく取り組める項目や高松JCの意欲により、取り組める内容を設定致しました。

取組の手順

計画(Plan)→実施(Do)→点検(Check)→見直し(Action)で行います。



1 ゴミ

事業は様々な目的と形式で開催される為、ごみが出ないという事は考えられません。ごみは出来るだけ出ない様にし(発生抑制)、再び使えるものは使い(再利用)、出来るごみは資源化(リサイクル)する様に工夫して、出た全てのごみは適正に処分する事が大切です。

取組内容

- インターネットや電子媒体を活用し印刷物や配布資料を抑制する。
- チラシ、ポスターなどの資料や印刷物があまった場合は、主催者が持ち帰って資源化する。
- ごみは分別収集できるようにゴミ箱を配置し、適正に処分出来る様にする。
- ごみの収集場所に係員を配置して、適切な分別を来場者に案内する。
- 参加者によるごみの持ち帰りを呼びかける。
- 記念品などがある場合は、簡易包装にする。
- 会場内で飲食物を提供する場合は、リユース食器(システム)※を導入する。
- 事業で発生したごみの量や状況を認識し、今後におけるごみ削減に努める。
- その他

※リユース食器(システム)とは・・・使い捨て容器を使用するのではなく再び使用が可能なリユース食器のレンタル、野外でも使用できる洗浄機による現場での食器洗浄を行いごみの減量を行う総合的な環境対策支援システムです。

ポイント:一度捨てられたごみを分別するのは大変です。あらかじめ発生するごみの種別を予測しておけば、適切な収集場所や必要なゴミ箱を準備する事が出来ます。

2 交通

事業の開催は、環境に影響が及ぶのは会場だけではありません。参加者などが移動する時には利用する交通手段によっても影響があります。例えば自動車の場合は、排気ガスに含まれる二酸化炭素が地球温暖化の原因になります。

取組内容

- 会場や開催時間を決める時は、公共交通機関が利用出来る様に考慮する。
- 開催の案内には公共交通機関の利用での来場を呼びかける。
- 自家用車の利用者にアイドリングストップを呼びかける。
- 開催会場まで公共交通機関の利用が困難な場合はシャトルバス等を運行したり、自家用車利用の場合は乗り合わせを呼びかける。
- その他

ポイント:公共交通機関の利用やアイドリングストップを呼びかける時には、チラシ・ポスターなどに記載し、会場近辺の案内看板に掲示したりすると効果的です。

3 省資源・省エネルギー

ごみが出ない様にしたり、公共交通機関を利用したりする事で資源やエネルギーの無駄を減らす事が出来ますが、事業では様々な資源やエネルギーが使われますから、さらに工夫が必要です。

取組内容

- 照明や空調の温度設定は、状況に応じて調整する。
- 電気製品を使用する時、不使用時にはOFFにする。
- チラシ・ポスターなどの印刷物は、必要な数をよく確認してあまらない様にする。
- 来場者が水を使う洗面所などに、節水を呼びかける張り出しをする。
- 事業で繰り返して使える印刷物は再利用する。
- 事業で使用する物品や資材は、環境に配慮した製品を優先して購入する。
- 事業で使用する物品や資材は、出来るだけ地元で生産されたものを使用、購入する。
- クールビズで過剰な冷房を抑制する。
- ウォームビズで過剰な暖房を抑制する。
- その他

ポイント: 夏季の冷房温度は28度、冬季の暖房温度は20度が目安です。

: 実際に使った印刷物の部数など議案書に記録し、次の事業の参考にする。

: 環境に配慮した製品を購入する時は、※1エコマークや※2グリーンマークが参考になります。

: 地元で作られたものを地元で消費することを「地産池消」と言い、消費者と生産者の相互理解を深めるだけではなく、環境保全にも貢献します。



※1 エコマーク



※2 グリーンマーク

4 環境啓発

事業には様々な人々が参加し、中には多くの参加者が見込まれるものもありますから、環境配慮への理解と行動を呼びかけるのに良い機会です。さらに、参加することで環境配慮を実践出来る事が理想的です。

取組内容

- 環境に配慮したイベントである事をチラシ・ポスターなどに明記する。
- 事業で行っている環境配慮への取組を明記し、その意義などについて来場者に説明する。
- 環境に関する情報を来場者に提供する機会を設ける。
- 事業の開催前後に会場周辺を清掃する。
- その他

ポイント: 事業終了後に会場を清掃するとき、来場者にも呼びかけると、参加者との間により強い一体感が生まれることが期待出来ます。

5 運営体制

環境に配慮する取組を確認すると共に、確実に実践していく為の運営体制を整えておく事が大切です。

取組内容

- 事業について高松JCスタッフや出展者などへ、事前にECOイベントマニュアルを基に取組内容を説明し、理解と協力を求めます。
- 参加者や高松JCスタッフ、出展者など全員に今後、家庭や企業でECOを実践して頂く。
- 環境保全に関心のある企業・団体やNPOなどと連携・協働を行う。
- その他

ポイント: 高松JCスタッフの中から環境配慮の責任者を選んでおく事で、取組の進行や管理がしやすくなります。

6 その他

①～⑤の区分に当てはまらない内容がある場合